

[新学習指導要領の最新情報も充実!]

90th
教育技術

11
月号
2017 Nov.

スペシャルインタビュー

木原雅子さん
(京都大学大学院准教授)
「全ての子どもが
輝ける教育とは」



小五 教育技術

新連載

【対談】
ももいろクローバーZ
×
俵原正仁先生
第2回 佐々木彩夏さん



特集① 主体的・対話的で深い学びを引き出す

ICTを活用した授業実践例

特集② 11月の荒れに効く!

学級立て直しのポイント

特集③

「聴き取る」「感じ取る」「味わう」の
3ステップで考える音楽鑑賞学習

【特別企画】

逆境を乗り越える力を身につける!
「レジリエンス」を
高める指導法

ネットで検索

教育技術.net

検索

木原雅子さん

(京都大学大学院准教授)

全ての子どもに、自分らしく輝きながら
人生を切り開ける力をもたせたい

様々な問題を抱えた学校から依頼を受け、それぞれの子どもたちに合ったテイラーメイドの出張授業を行う木原雅子さん。「WYSH (ウィッシュ) 教育」と名付けられたその手法が、驚きの成果をもたらしていると評判です。

Profile

きはら・まさこ。1954年長崎県生まれ。医学博士、京都大学大学院医学研究科社会免疫学分野准教授。'99年に日本で初めて全国性行動調査を実施。'02年にエイズ教育を目的としてデータと科学的方法に基づくWYSH教育を創始。教育困難校での授業実践などを通じて、「どう生きるか」を問いかける教育を推進している。



ある中学校では、「英語の授業が嫌い」という声と「将来の夢は声優」という声が多かったことから、子ども全員が大好きなアニメ映画の1シーンを使った英語の授業を考えました。英語のセリフを声優になりきって言うてもらったのです。英語のセリフのテープ起こしをする作業はかなり大変でしたが(笑)、子どもたちは大喜びでした。

——NHKのEテレで紹介された宮崎県延岡市の中学校の事例は、大きな反響を呼びましたね。

そこでまず「思春期の心と体」をテーマにした授業から始めることにしました。「ムカつきくん」というキャラクターのアニメーションを作り、「思春期にムカムカが起ころのはホルモンのせい、あなたたちが急に悪い子になったわけじゃない」と説明し、「ムカムカしたときどう対処するか？」を考えてもらいました。子どもたちからは、「叫ぶ」「クッションを投げる」「お風呂に長く入

る」など様々な方法が挙がりました。「ムカムカを回避する方法はいろいろあるんだ」「それを感じているのは、自分だけじゃないんだ」と、子どもたちは気付くことができました。

また、「プチスタ」という自習プリントを希望者に配り、空き時間にやってもらうようにしました。授業中と違って先生が一人ひとりのつまずきに個別に対応できるように、子どもたちは驚くほど熱心に勉強に取り組むようになりました。最後に未来の自分から10年後の自分へ手紙を書いてもらいました。子どもたちはもともと持っている力を発揮できるように、未来を考え、「どう生きるか」という目標をもてるようになったと感じています。

——小学校ではどんな事例がありましたか？

ある都市部の小学校から「私立中学を受験する子どもとしない子どもで、クラスが真つ二つに分かれてしまっている。どうにか全員を仲良く卒業させたい」という依頼がありました。各家庭の経済格差にもつながる難しい問題です。

そこで「国際子どもサミット」という授業を考えました。コンゴとイエメンの小学六年生と日本の子どもたちに同じ質問をして、答えを交換するものです。現地の子どもにビデオカメラに向かって話してもらい、リアルタイムでやりとりをしているような雰囲気を出しました。

——WYSH教育とはどういったものですか？

一言で言うと「どう生きるかを考える教育」です。WYSHとは Wellbeing of Youth in Social Happiness (子どもたちの真の幸福)の頭文字を取ったもので、すべての子どもたちが自分らしく幸せに輝き、自分の人生を自分で切り開いていく力をもてるようにすることが目標です。小・中・高、あらゆる年代に対応しています。

年に一度「日本子ども財団」のホームページに、「学校で困っていることがあれば、出張授業に行きます」と告知を出しています。応募してきた数十校からよりニーズの高い1、2校を選び、現状を調査して「その子たちに何が必要なのか」を探り、彼らに寄り添った出張授業をします。授業はだいたい1回ですが、半年から1年以上関わる場合もあります。

学校が抱える問題は「いじめが横行して、学校がグチャグチャになっている」「私語が多くて授業が成り立たない」「もう少し学力をあげたい」など様々です。これまで15年間で30万人を超える児童・生徒に授業をし、いじめや遅刻が改善されたり、不登校が減るといった効果を出してきました。

——どうやって「その子どもたちに合った」テーマメイドの授業を考えるのでしょうか？

まず一生徒として授業に参加します。後ろで「参観」するのでなく、自分が当てられるかもしれないという気持ちで聞くのが大事です。例えば低学力に悩んでいる中学校では、大人の私でも「先生の話が全然わからない!」「先生が『わかっているよね?』と怖いオーラを出している、とても質問ができない」などに気付きます。

子どもたちへのインタビューのコツ

次に子どもたちを数人のグループにして、じっくり話を聞く。「フォーカスグループインタビュー」をします。くつろいだ雰囲気の中で、友達同士の話を聞かせてもらうような感じですが、言葉でうまく伝えられない子もいるので、紙に絵を描いてもらうこともあります。席の配置も先生に向かって正面ではなく、コの字形か円形になるのがベストです。

グループのつくり方も重要です。グループの中にいじめられている子といじめている子がいると、本音を話せなくなります。子ども同士の関係性がわからなければ、何通りかのグループをつくって、どの時にその子が一番いい顔をし



木原先生から出された課題について、グループで意見を出し合う子どもたち。



ているかを見てください。インタビューでは子どもの表情の輝き、変化を見逃さないようにします。「この話をしたとき、すごく嬉しそうな顔をしていたね。もっと詳しく教えてくれる?」といった具合です。そして「この子たちに何が必要なのか」「一番笑顔になれる授業はなんだろう」と考えます。



ばと思います。もし「明日からクラスをもう少しよくしたい」と思っていたら、こんな工夫をおすすめします。

(1)「おはよう」「さようなら」などの声かけのあとに、一人ひとりの名前をつけてあげてください。「おはよう、○○ちゃん」「ありがとう、○○君」は、その子に向けた「特別な言葉ラッピング」です。先生との絆がとても強くなります。

(2)子どもたちにたくさん寄り添ってください。忙しい先生が子どもたちと接する機会は、多

いようで実は少ない気がします。授業では「みんながついてきているか？自分一人で行っていいか？」と見回してみてください。

(3)先生自身のことを子どもたちに話してみてください。「先生が小五の時に考えていたこと」を話したり、「先生が小五の時の写真」を子どもたちに見せるのもよいでしょう。もちろん、言いたくないことを無理に言う必要はありませんが、相手の心を開くためには、自分をオープンにすることも必要です。

(4)何か問題があるなど感じたら、先に紹介したフォーカスグループインタビューをしてみましょう。話しにくそうな子には、個別に聞き取りをする機会をもつとよいと思います。こうした機会を通じて、子どもたちは本能的に「この人は話を聞いてくれる人」と感じ、本音を話してくれるようになります。問題や不具合を抱えている一人の子が力を発揮できるようにすると、クラス全体の生きる力も驚くほど上がる

「性行動が乱れている」など性的問題を抱える学校が多く、「高校三年生女子の46%に性体験がある」状況です。でも今は、約半数に減っています。早熟な子は昔と同じ割合でいるのですが、逆に性に嫌悪感をもつ子が増えています。

理由の一つには、ゲームやアニメ、さらにSNSなど「二次元」の中で生きている子が増えていることがあると思います。「二次元の中で人間関係を築くことができ、平和に暮らしているのに、リアルな世界に引っぱり出さないで！」というわけです。それはそれで問題だと思わなくていい。

——最近、増えている子どもたちの問題は？

やはり「いじめ」です。自殺者が出た高校から、「子どもたちが騒然として、まったく授業にならない」という依頼を受けたことがあります。その時は「無人島に何を持っていきたいか？」という授業をしました。スマホなど電気機器は一切ダメという条件付きです。すると「ペットを連れていく」「食料」「本」「家

——WYSH教育はもともとは性教育だったそうですね。

そうです。私はエイズ予防研究者で、'90年代後半から全国の子どもたちにアンケート調査とインタビューを行い、彼らにきちんと届け予防のための授業をしたいと思い、始めました。2000年初頭は「中絶を繰り返す子がいる」

——WYSH教育はもともとは性教育だったそうですね。

そうです。私はエイズ予防研究者で、'90年代後半から全国の子どもたちにアンケート調査とインタビューを行い、彼らにきちんと届け予防のための授業をしたいと思い、始めました。2000年初頭は「中絶を繰り返す子がいる」

——WYSH教育はもともとは性教育だったそうですね。

そうです。私はエイズ予防研究者で、'90年代後半から全国の子どもたちにアンケート調査とインタビューを行い、彼らにきちんと届け予防のための授業をしたいと思い、始めました。2000年初頭は「中絶を繰り返す子がいる」



——現場の先生が、自分でWYSH教育を実践することは可能ですか？

もちろん可能です。WYSH教育の事例集(日本子ども財団HPから購入可能)を作っていますので、一部でも取り入れて実践してもらえ

先生は万能じゃなくんす

先生に伝えたいことはありますか？

小学校の先生は担任制ゆえに、クラスを密室化してしまいがちです。何か問題があると先生自身が「自分の力不足ではないか」と考え、周囲にSOSを出さないことが多くあるようです。決して先生のせいではありません。一人で抱え込まずに、みんなで課題を共有できるように、風通しをよくすることが必要だと思います。

先生にだって「コミュニケーションが苦手だ」という人はいます。でもそれは強みになります。同じ思いをもつ子の気持ちわかることで、よりよい対処もできるはず。先生は必ずしも全員を惹きつけるパフォーマーじゃなくてもいいんです。私たちは芸能人ではないのですから(笑)。誠心誠意、自分らしく授業をすれば、必ず子どもたちに届くと思います。

——現場の先生が、自分でWYSH教育を実践することは可能ですか？

もちろん可能です。WYSH教育の事例集(日本子ども財団HPから購入可能)を作っていますので、一部でも取り入れて実践してもらえ